

『ぎやくカルチャーショック』

ティルブルグ補習授業校（オランダ）

小二 毛利もうり 仁謙みのり

（海外滞在年数八年二ヶ月）

わたしはカルチャーショックをうけたみたいです。ママが、

「みーちゃんは、ぎやくカルチャーショックをうけたんだね。」

と言いました。

「カルチャーショックってなあに？なんでぎやく？」

と聞いたたら、ママは、

「日本でオランダではないことを、見たりしたりして、びっくりすることだよ。」

とわらって言いました。オランダの五月休みにわたしは、ママにおねだりして一週間だけ日本の学校にいつてみました。ママが小さいころいつていた学校らしいです。

まずびっくりしたことは、みんなで大きなこえをあわせて色いろなことを言うことです。

女の子がこたえを言って、

「これでいいですか。」

と聞いたたら、みんながいっしょに、

「いいです。」

と言っていました。ほかに、「ありがとうごさいます。」「いただきますもいいですか。」とかみんなですしよにさけんでいました。はじめは、「なんだ、なんだ、なにをしているの。」と、このろの中でおもいました。はじめはびっくりしたけど、みんなで大きなこえを出すのは本とうにおもしろかったです。でもオランダでは、一人ずつしゃべることしかありません。そしてあんまり大きなこえであいさつしたり、しゃべっちゃうとろうかに出されます。

つぎのびっくりりは、クラス・トイレ・ろうか・げたばこを、まい日みんなですうじすることです。

「ここはみのりちゃんがやってくれん？わたしはあつちをやるけん、どっちがいっぱいごみをあつめられるかきようしようしよう。」

と言われて、わたしは、はじめてぞうきんをつかいました。ぞうきんレースをしたり、けんけんめいろですうじをしたり、すぐたのしくてたまりませんでした。あそべるし、きれいになるし、みんなでじぶんの学校をそうじするのは、いいアイデアだとおもいました。

どうしてかというと、わたしのオランダの学校では、トイレをとてきたなくつかう子がいるからです。じぶんでそうじしたら、みんなもつときれいにつかうかもしれないし、へんなつかいかたをして、あそんだりしなかなあとおもいました。

さいごのびつくりは、きゆうしよくとうばんです。きゆうしよくがあるのは、ママに聞いて知っていました。でも、白いおもしろいぼうしとかエプロンをきて、みんなにごはんをくぼるかかりがあるのは、知りませんでした。わたしもはじめてマスクをはめて、みんなと同じごはんをくばりました。

「もっとじゃんじゃん入れて。」とか、

「それにがてやけんすくなくして。」

と言われて、わたしはクラスのおかあさんになった気分でした。オランダでは、いえからばらばらに、ハムやチーズをはさんだパンをもってきます。それを五ふんだけたべておわりです。きゆうしよくは、おいしいものがたべられてまい日たのしみでした。でもぎゆうにゆうをのまなきやいけないのは、ちよつとつらかったなあ…。

五月休みは、「いっぱいびつくり」があつまった一週間でした。

「ママはこんなに楽しい学校にいったなんて知らなかったよ。早く言ってよ。」

と言ったら、ママは大きなこえで、

「あっははっはははは。」

とわらっていました。またいけるといいなあ。